

会 議 録

第7回定例会

開会 令和7年7月24日

教育委員会会議録

1 開 会 令和7年7月24日 午前10時

2 閉 会 令和7年7月24日 午前11時18分

3 教育委員会出席者

教育長	中川 斉史
委員	島 隆寛
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子
委員	横田 賢二
委員	糸井 恵理

4 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	松本 光裕
教育次長	海老名 正規
教育次長	眞相 秀也
教育政策課コンプライアンス推進室長	田上 裕之
教育創生課長	青木 秀夫
義務教育課長	長谷 彰彦
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
教育政策課長	地面 浩
教育政策課副課長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 報告事項 1 及び報告事項 3 を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第 2 3 号 令和 8 年度徳島県立中学校及び徳島県立中等教育学校生徒募集選抜要項について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

岡本委員：要項 3 ページ（7）の障がいのある志願者等に対する配慮について、すべての文末が「しなければならない」となっており、高圧的な感じがする。配慮が必要なお子さんにとっては、申請書を出すことで受検に不利になるかもしれないと躊躇することもある。もう少し柔らかい表現にはできないか。

教育創生課長：高校入試も同様であり、今後の検討課題とさせていただきたい。

島委員：調査書に出欠の記録の欄があることが気になる。無理に学校に来なくてもいいと言う一方で、調査書には、出席に関する評価がある。例えば、保健室登校していれば出席扱いになるなど、通常の学級に行かなくても支障のない評定の在り方の理解があまり進んでいないように思う。

教育創生課長：中学校入試の調査書では、出欠の記録の欄が設けてあり、欠席が

年間10日以上ある場合は、理由を書くことになっている。各学校の状況を見極めつつ、他県の状況等も参考にして参りたい。

河野委員：出欠の記入はあるが、点数化はしてない。学校生活がどういう状況なのかを中学校側が知りたいということもある。

島委員：出席状況については、合否に関わる要素の一つなのか、保護者も心配なところがある。

岡本委員：例えば5年生でほとんど出席できず、6年生では頑張っ学校に来ることができた場合、5年生の評価をどうするのか、どう配慮していくのかが大事である。

教育創生課長：提出する側の配慮をどのようにするかを考える必要がある一方で、受け入れる側としては、どのような学校生活を送ってきたのか知っておきたい情報でもあるので、双方に御意見をいただきながら、今後考えていきたい。

教育長 議案第23号を原案通り決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第23号を原案通り決定する旨を告げる。

《報告事項2 徳島県公立高等学校の在り方検討会議の開催について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：先日実施された「高校生と教育長によるアイデアソン」において、高校生からはどのような意見が出されたのか。また、こうした高校生をはじめとする若年層の意見を、高校の在り方の検討にどのように生かしていくのか。

教育長：各高校から1～2名の代表生徒にご参加いただき、グループ討議を行った。率直な意見を聞くことができ、私自身非常に意義深く感じた。生徒たちは他校の取組や学校生活の様子を知ることによって刺激を受け、新鮮な体験となったようである。特に印象的だったのは、各生徒が自分の高校に誇りを持ち、主体的に高校生活を送っている姿勢が見られたことである。一方で、将来を見据える中で、現在の授業に対する課題意識も示され、「こういう授業があったらもっと良いのではないか」といった前向きな提案も聞くこ

とができた。生徒たちは、自らの今と未来とのつながりをしっかりと意識しており、その姿勢に感銘を受けた。公立高校の在り方検討会議においても、こうした高校生の意見を共有・活用しながら議論を進めてまいりたい。

島委員：高校教育の内容が、中学生以下の世代にも分かりやすく、正しく伝わっていくとよい。

教育長：生徒が主体的に高校を選択できるよう、各校の特色や情報を正確に伝えることが重要な課題である。

横田委員：今回参加した意識の高い代表生徒たちの意見が、高校生全体の考え方とどの程度一致するかについては、今後さらに幅広く声を聴いていくことも必要かもしれない。

岡本委員：テレビで拝見したところ、生徒の皆さんが生き生きと活動している様子が非常に印象的であった。このように高校生が自信を持って活動する姿をさらに積極的に発信できるとよい。また、当日参加が難しかった生徒や保護者の声にも耳を傾ける機会が設けられると、より豊かな議論につながるのではないかと思う。

《報告事項 4 令和 7 年度第 2 回徳島県学びの多様化学校の在り方検討会議 議事内容について》

教育長 報告を求める。

いじめ・不登校対策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

糸井委員：他の学校にもこの学校で体験できる取組をトライしてもらいたい。就職を考えたときに、この学校の存在意義や今後のプランが見えていると良いと思うが、そこまで考えてしまうと子供たちの負担が増えるのかなとも思う。

いじめ・不登校対策課長：スクールビジョンや活動内容の周知をしっかりとっていきたい。

岡本委員：県教委のねらいの中に、子供たちがこの先どうなって欲しいのかといった、子供や保護者へのねらいが明確でない気がする。研究のねらいはすごく分かるが、登校してくる子供たちのその先に目指すものが見えて欲しい。行きづらい子供にとって、何らかのかたちで交流があつて、鳴門教育大学の広い敷地内で色々な活動が一緒にできるようなことができたらおもしろい。大

学との連携が初めての取組でおもしろいと思うが、他県に類をみないことだけを売りにするのではなく、子供たちのその先をメインに考えて進めてほしい。

[非公開]

《報告事項3 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について》

《報告事項1 公益通報の受付・処理状況について（令和7年4月から6月分）》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前11時18分